



## ●「ブルーノ・ムナーリの本たち

MUNARI I LIBRI 1929-1999

【著者】 ジョルジョ・マッフェイ

【出版社】 ビー・エヌ・エヌ新社

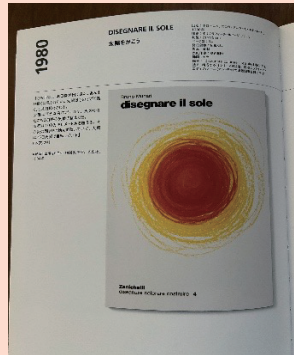
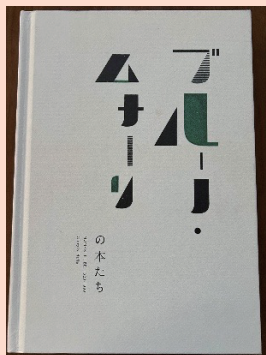
本書はブルーノ・ムナーリが 1929 年から死去翌年の 1999 年までに手掛けたすべての本をカラーで年代別に紹介、解説している。

また「目録作成のガイドライン」「ムナーリの仕事の軌跡」等も収録されており、ムナーリを知る手立てにもなっている。

ページをめくるたび、図版と解説に見入ってしまい何度見ても新たな発見があり、創作意欲をかき立てられる一冊である。

### ＊ブルーノ・ムナーリ

イタリアの芸術家。グラフィックデザイナー、プロダクトデザイナー、絵本作家、造形教育など多岐にわたる顔を持つ。



(幹事 渡邊裕美)

## ●北畠顧問を偲び 学会誌 Vol.33

2009 年の「日本色彩学会誌 Vol.33.No.3」に、北畠顧問が「日本色彩学会 - 色彩教材開発の諸問題」と題し、7 頁にわたって、1996 年発足の色彩教材研究会の背景と動機から、当時の色彩入門書の問題点から、研究会の活動経過、色彩教材の特質、研究会の開催手順とその難しさなどについて執筆されている。

その中に、色彩教材の評価基準を、1) 有用性、応用拡張性、効果の持続性。2) 題材の親近性、着想の独創性。3) 美的構成、直感的訴求性、表現の簡潔性。4) 材料入手容易性、低価格性。5) 安全性、耐久性、保管の容易性を挙げられていて、これは現在でも考慮すべき基準である。

最後に「研究会の今後について」の結びの文章に、北畠顧問の思いが綴られており、いまだ達成できていない項目が多々見られるので、実現が望まれるところである。

別表として「色彩教材研究会活動の軌跡」と「色彩教材通信講座」として 12 年間のリストがまとめられており、今後の研究会企画の参考として欲しい。

2009 年の学会誌を探し出して、再度目を通していただければ幸いです。(永田泰弘)

## ●大辞泉ひろい読み 96-こ

**声色：**こわいろ。声の音色。声の調子。こわね。他人、特に役者や有名人のせりふ回しや声をまねること。

**紺：**こん。紫色を帯びた濃い青色。濃い藍色。

**紺搔き：**こんかき。藍で布を染めること。また、それを業とする者。こうかき、こうや。

**紺緋：**こんがすり。紺飛白。紺地の緋を白く染め抜いた模様。また、その模様の織物や染め物。久留米緋、伊予緋など。

**紺紙：**こんがみ。こんし。紺色の紙。藍紙。

**紺看板：**こんかんばん。背、襟などに主家の屋号を染め抜いたところから、中間などが着る紺地の短い上着。はっぴ。しるしばんてん。

**紺桔梗：**こんききょう。染め色の名。紺がかった桔梗色。

**紺括り：**こんくくり。紺色の括り染め。紺絞り。こんくくし。

**紺紙金泥：**こんしこんでい。紺紙に金泥で経文や仏画などを書いたもの。 、 、

**金字：**こんじ。金泥で書いた文字。写経などに用いた。

**金色：**こんじき。黄金の色。きんいろ。

**金色世界：**こんじきせかい。金色の世界。文殊菩薩の浄土をいう。

＊大辞泉：小学館発行国語辞典 (永田泰弘)